

経営料亭の被ばくと被爆地での生活のこと

匿名希望（祖父から聞いた話）

昭和 20 年（1945 年）、当時 5 歳だった私の父方の祖父は、広島市で暮らしていました。私の曾祖父が大手町三丁目に料亭をかまえていたそうで、裕福な家庭だったと聞いています。戦時下、料亭は尉官向けの慰安所として使われ、祖父は生口島の瀬戸田へと疎開しました。曾祖父は原爆投下の前日の夜、列車を捕まえて祖父のもとへ向かい被爆を免れましたが、料亭は失われ、女中や慰安婦もみな命を落としたそうです。

終戦後、祖父は焦土となった広島で生活し、川に潜って魚をとったり（その際に川底に骸骨がたくさん沈んでいるのを目にしたとか）、味のないさつまいもを食べるしかなく、そのさつまいもが今でも夢の中に現れるのだそうです。